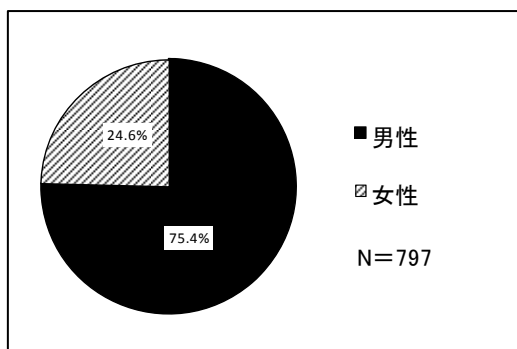


## 第2章 回答者のプロフィール

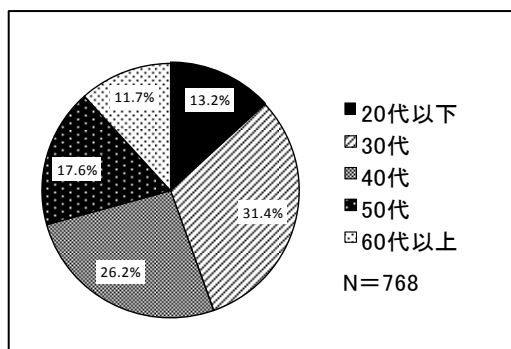
本調査の回答者のプロフィール（基本属性）を教員，職員，大学院生等の別に示す。

### 2-1 教員

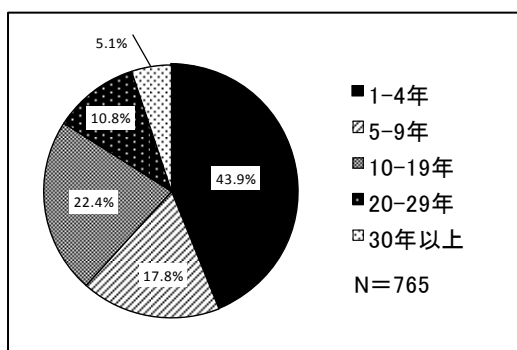
性別



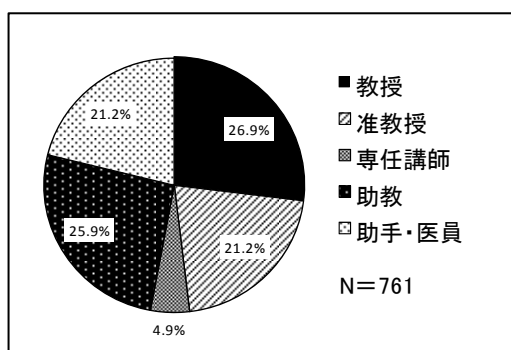
年代



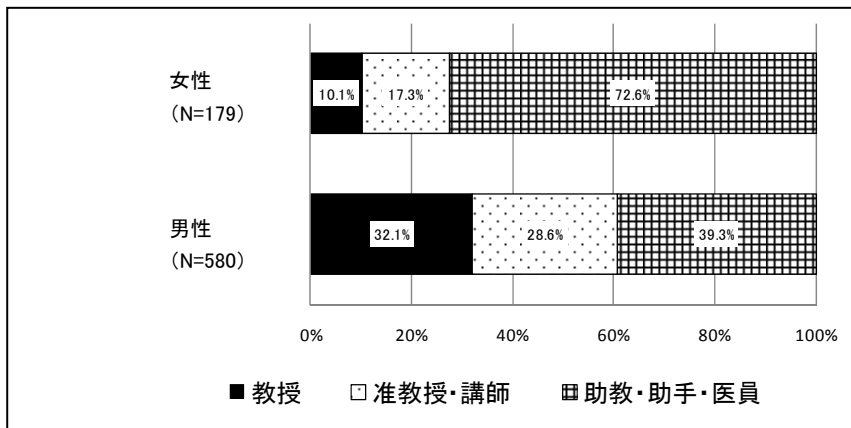
勤続年数



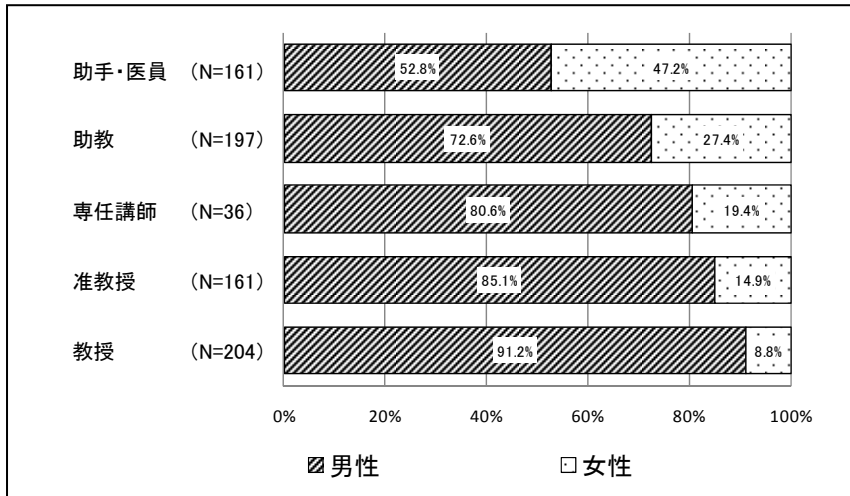
職位



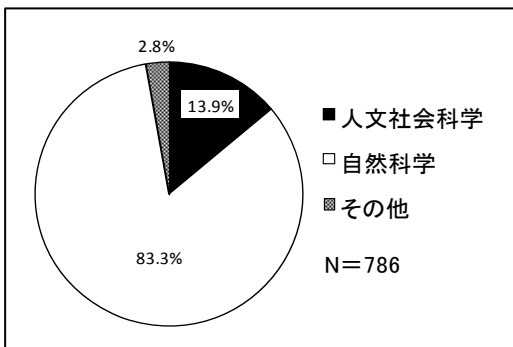
性別×職位



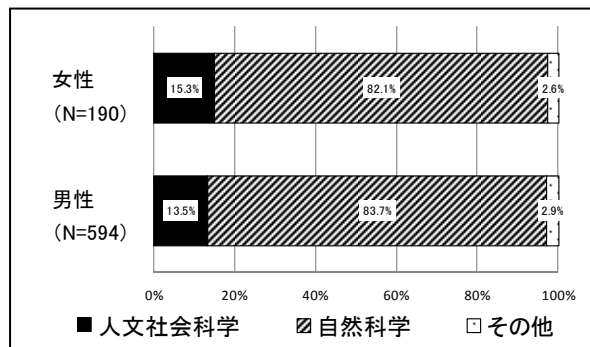
職位×性別



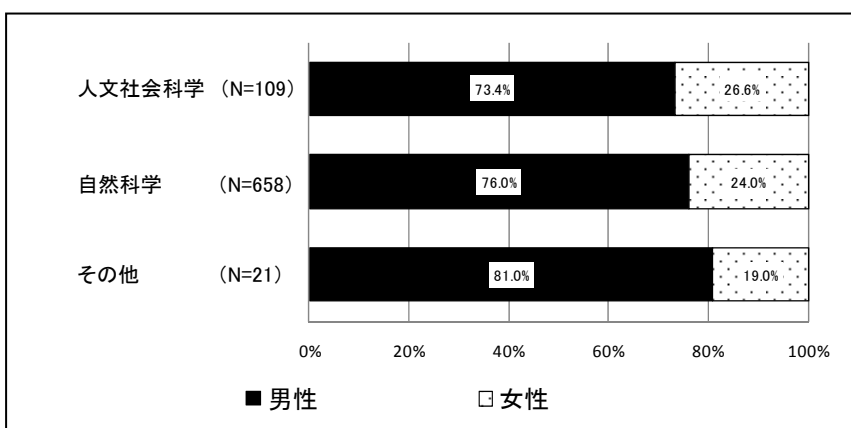
専門分野



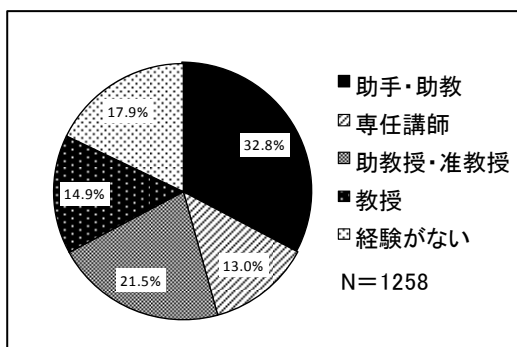
性別×専門分野



専門分野×性別



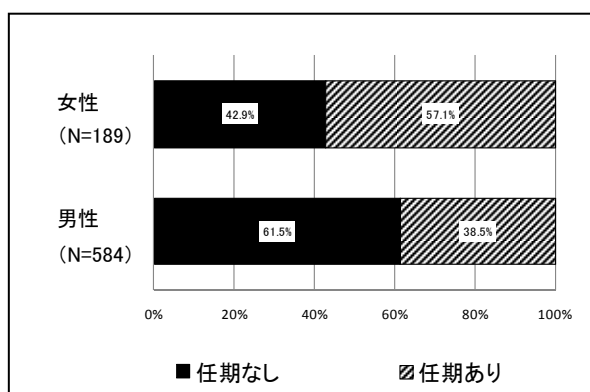
採用・昇任の経験



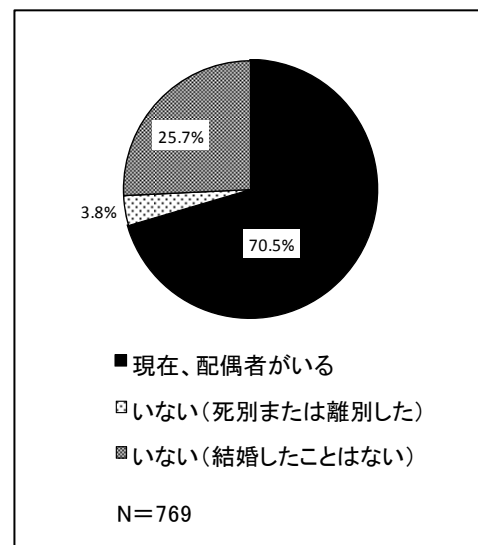
昇任年齢(平均年齢)、経験がない(人数)

	助手・助教	専任講師	助教授・准教授	教授	経験がない
男性	30.6	35.0	38.8	46.3	121
女性	32.1	37.4	39.0	48.9	104

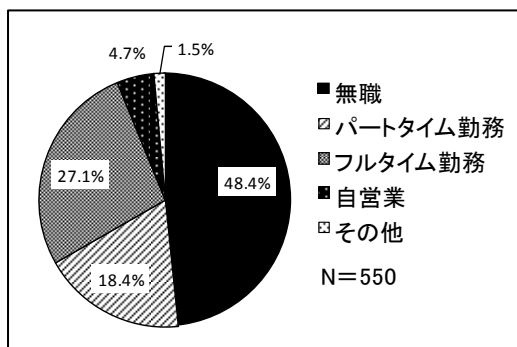
雇用契約



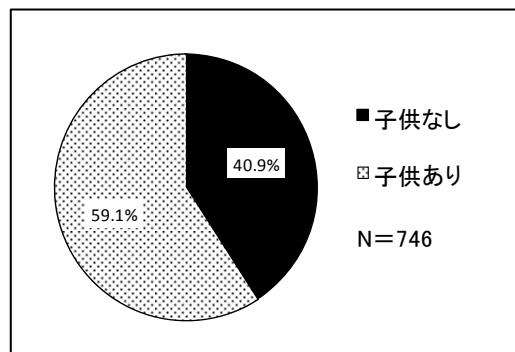
配偶者の有無



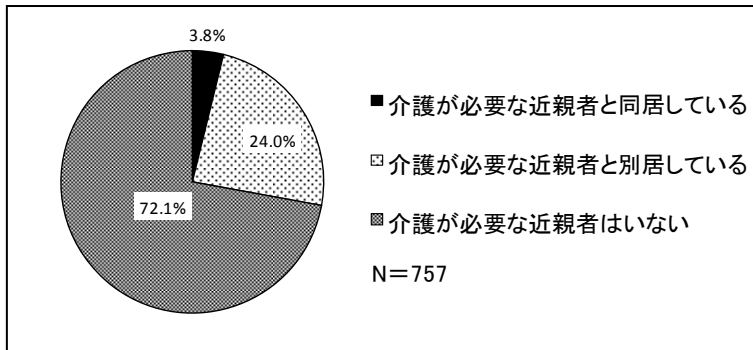
配偶者の勤務状況



子供の有無



## 介護を必要とする近親者の有無



教員の回答者のうち、男性、女性の割合はそれぞれ 75.4%、24.6%であった。岡山大学の全教員に占める女性の割合は 14%（平成 21 年 5 月、特別契約職員を含む）であるから、女性の回答率が男性よりも高かったといえる。これは男女共同参画をテーマとする他大学での調査にも共通してみられる傾向である。

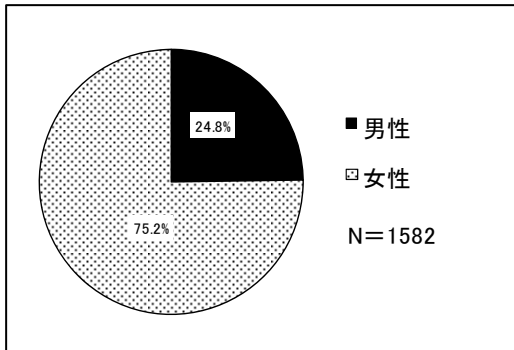
回答者の年代にはばらつきがみられ、もっとも多いのは 30 代（31.4%）であった。回答者の職位については、教授（26.9%）の割合がもっとも高かったが、助手・医員（21.2%）と助教（25.9%）を合わせると 47.1%となり、半分近くに上る。このことが、岡山大学での勤続年数の短い回答者が多いことと結びついていると考えられる。これを男女別にみると、男性の回答者は「教授」、「准教授・講師」、「助教・助手・医員」の割合がほぼ均等であるのに対し、女性の回答者は「助教・助手・医員」の占める割合が非常に高く、「教授」の割合は男性に比べて 3 分の 1 に過ぎないことがわかる。

また回答者の専門分野を性別にみると、女性のほうが人文社会科学分野を専門とする割合が男性よりも少し高いが、大きな差はみられない。

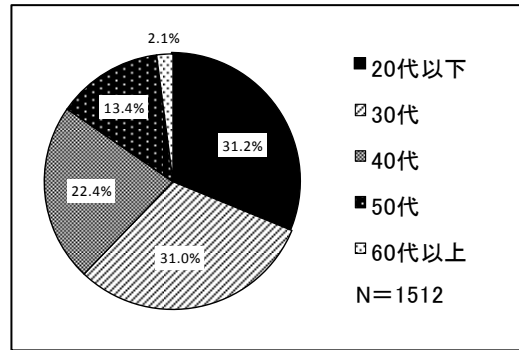
回答者の採用・昇任時の平均年齢を性別にみると、「助手・助教」「専任講師」および「教授」への採用・昇任に関しては、男性に比べて女性のほうが 2 歳程度遅くなる傾向がある。

2-2 職員

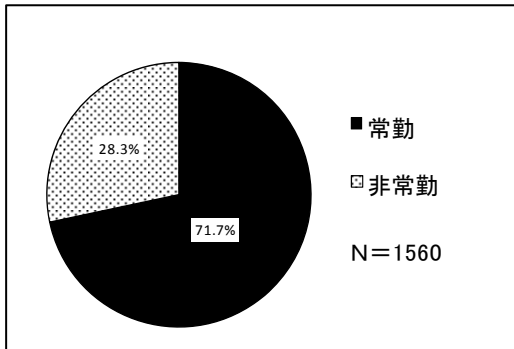
性別



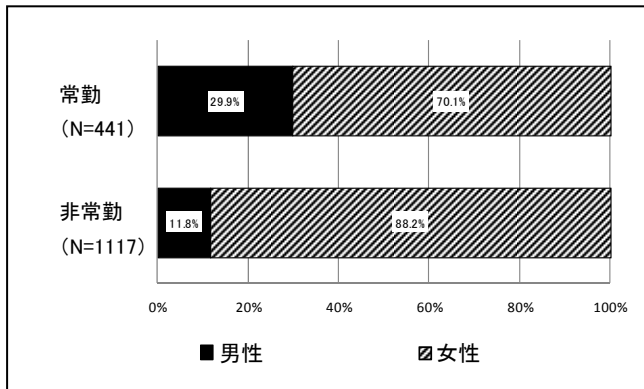
年代



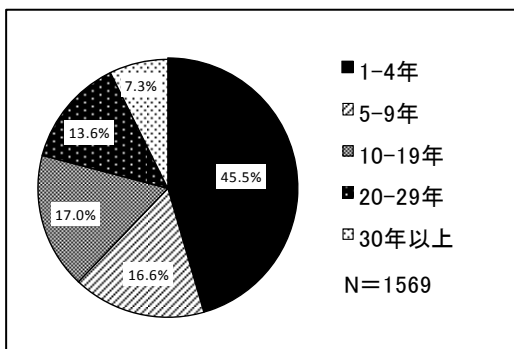
勤務形態



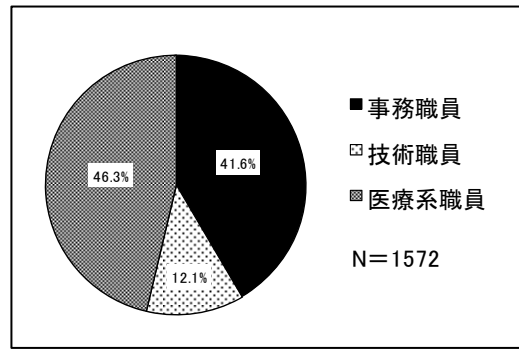
勤務形態×性別



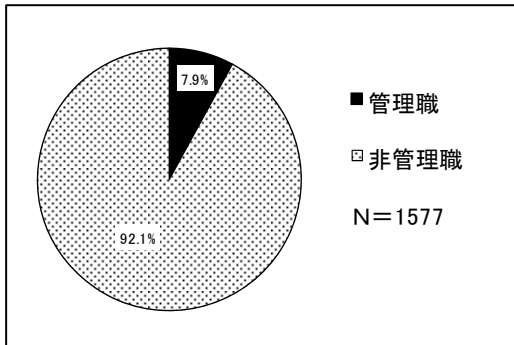
勤続年数



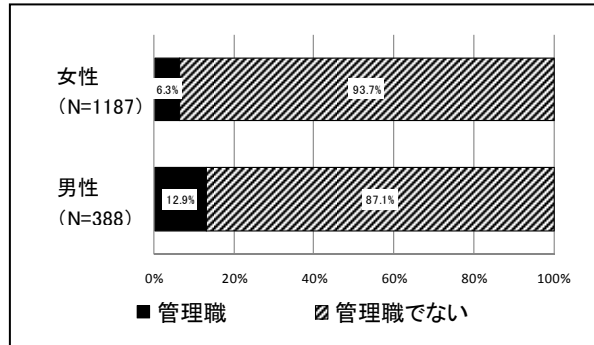
職種



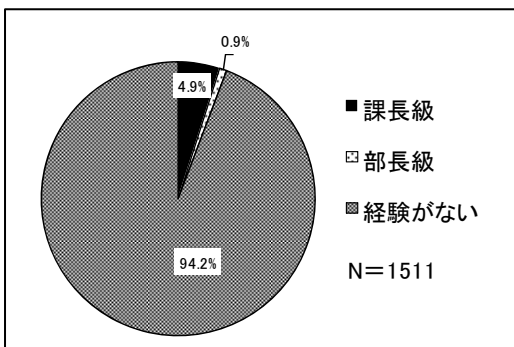
管理職の割合



性別×管理職の割合

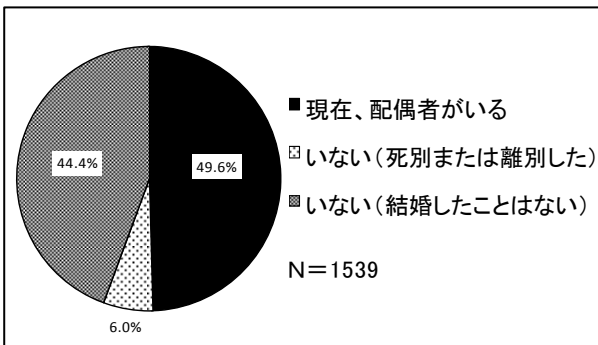


採用・昇進の経験

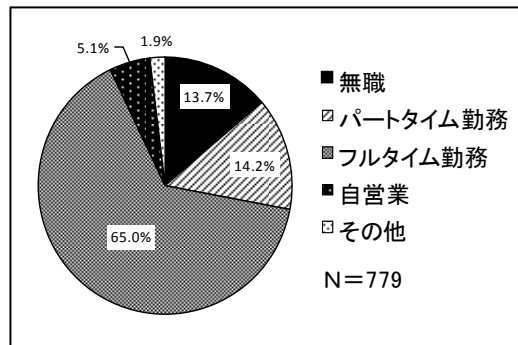


	回答数	平均年齢	最小	最大
課長級	74	43.3	28	57
部長級	13	51.4	35	58
未経験	1424	-	-	-

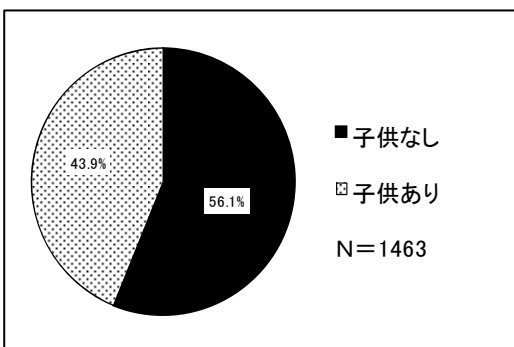
配偶者の有無



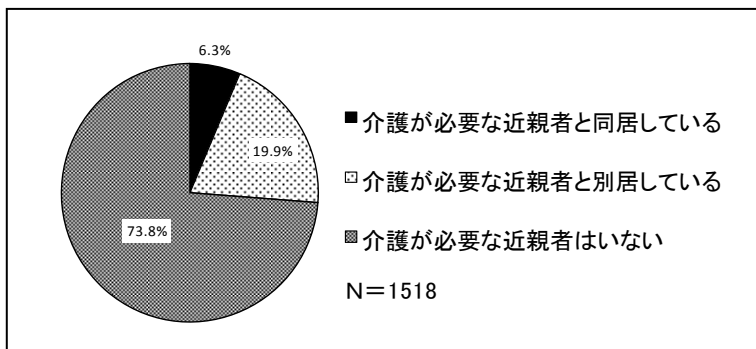
配偶者の勤務状況



子供の有無



介護を必要とする近親者の有無



職員の回答者のうち、男性は24.8%、女性は75.2%であった。岡山大学の全職員に占める女性の割合は68%（平成21年5月、非常勤職員を含む）であるから、女性の回答率が男性よりも高かったといえる。年代別にみると、もっとも多いのは20代以下（31.2%）であり、30代と合わせると、全体の62.2%を占めることがわかる。

回答者を勤務形態別にみると、常勤職員が71.7%であるのに対し、非常勤職員は28.3%である。回答者の非常勤職員のうち、女性の占める割合は88.2%であり、常勤職員の女性割合（70.1%）よりも高くなっている。

岡山大学での勤続年数については、もっとも多い回答は1～4年で、45.5%を占めている。今回の調査が非常勤職員も対象に含めているために、とくに勤続年数の少ない回答が多かったものと考えられる。

回答者の職種としては、医療系職員が46.3%、事務職員が41.6%、技術職員が12.1%となっている。

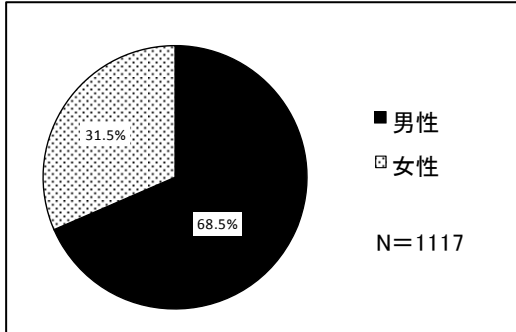
回答者のうち、管理職は全体の7.9%である。これを性別にみると、回答者は女性よりも男性のほうが管理職の割合が高いことがわかる。

これまで課長級の採用・昇進を経験した回答者のうち、採用・昇進時の最低年齢は28歳、最高年齢は57歳とかなりの開きがあることがわかる。部長級については、最低年齢が35歳、最高年齢が58歳であった。

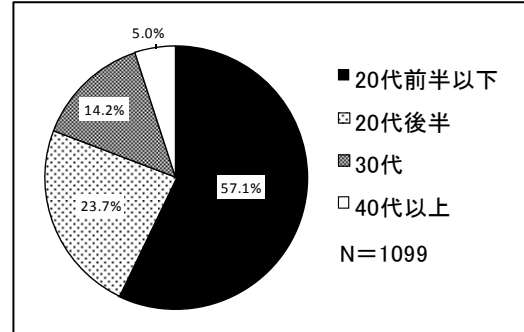
また、配偶者がフルタイム勤務、パートタイム勤務、自営業に従事している場合を合わせると、配偶者をもつ回答者のうち、84.3%が夫婦共働きの状況にあることがわかる。さらに同居・別居を合わせると、回答者の26.2%に介護を必要とする近親者がいる。

2-3 大学院生等

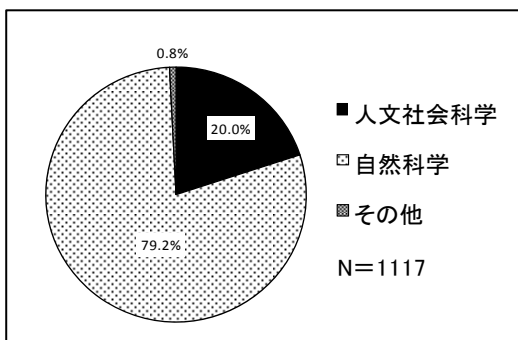
性別



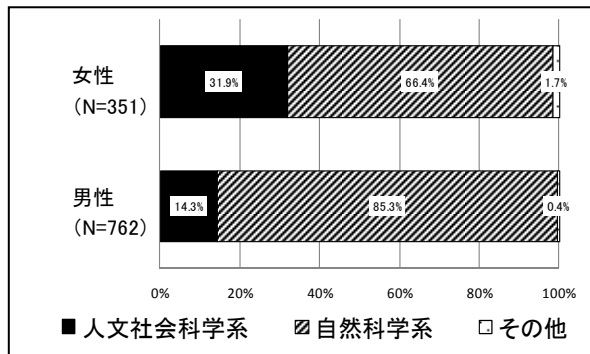
年齢



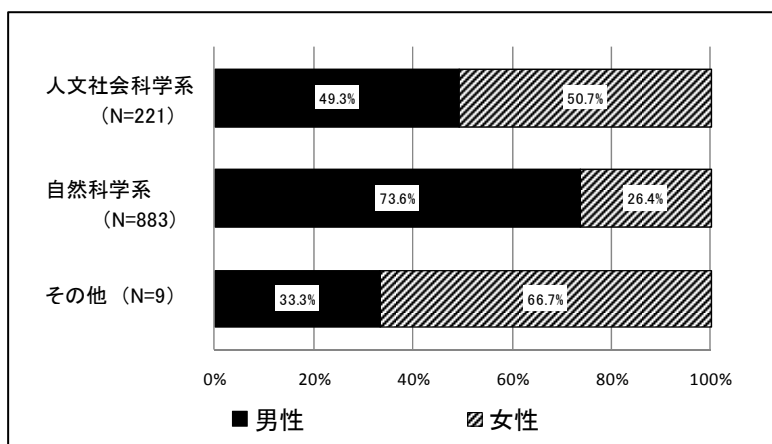
専門分野



性別×専門分野

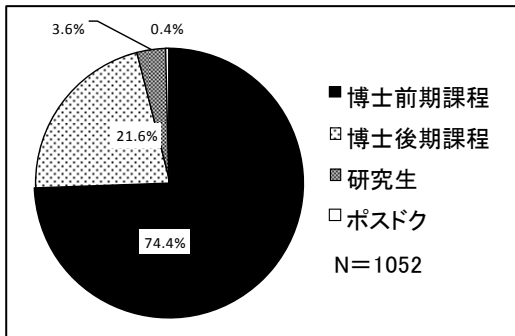


専門分野×性別

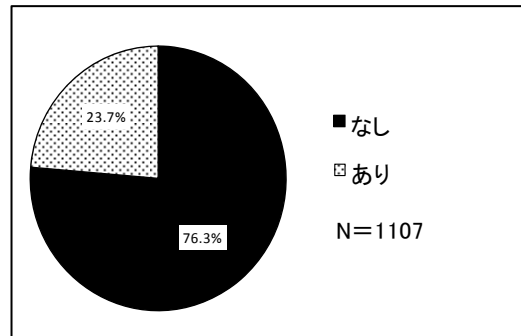




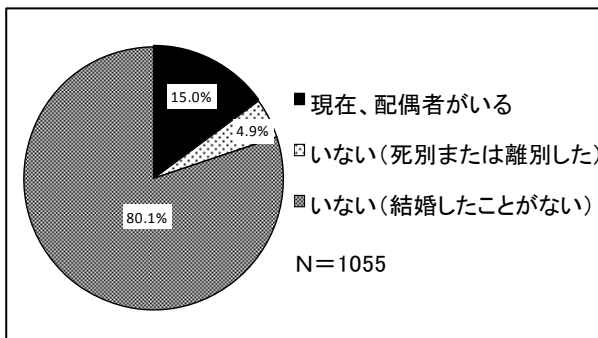
課程



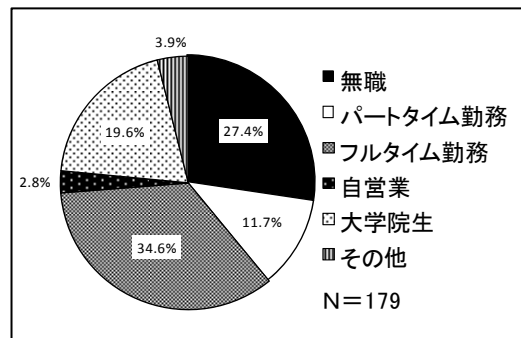
社会人経験（勤務経験）



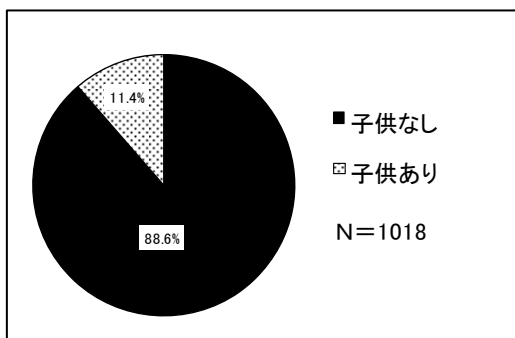
配偶者の有無



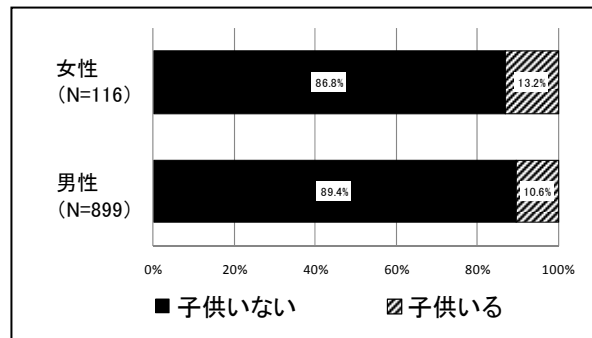
配偶者の勤務状況



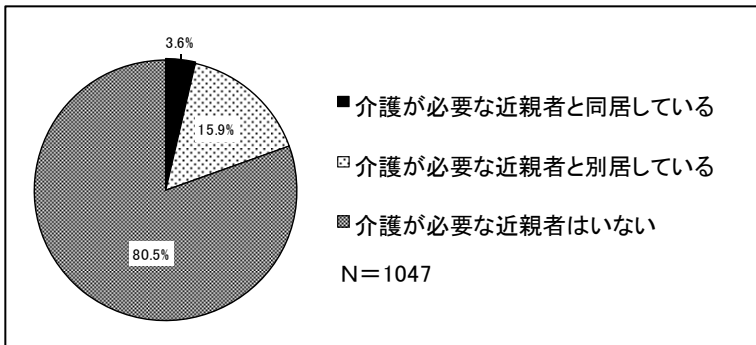
子供の有無



子供の有無×性別



## 介護を必要とする近親者の有無



大学院生等の回答者のうち、男性は 68.5%、女性は 31.5%である。岡山大学の全大学院生（ポストドク・研究生を除く）に占める女性の割合は 32%（平成 21 年 5 月）であるから、女性と男性の回答率はほぼ同程度であったといえる。年代別では、20 代前半以下がもっとも多く 57.1%であり、次いで 20 代後半が 23.7%となっているが、40 代以上も 5.0%を占めている。

回答者を専門分野別にみると、人文社会科学系が 20.0%であるのに対し、自然科学系が 79.2%となっている。これを性別にみると、以下の通り、回答者の女性のなかでは人文社会科学系が 31.9%に上るのに対し、男性の場合は 14.3%にとどまっている。逆に自然科学系の大学院生等の回答者の中で女性が占める割合は 26.4%、人文社会科学系の場合は 50.7%である。また学部卒業または博士前期課程修了後に社会人経験を持つものは、23.7%に上っている。

回答者における配偶者の有無については、現在、配偶者のいるものが全体の 15.0%を占めている。配偶者の勤務状況にはばらつきがあるものの、フルタイム勤務が 34.6%、大学院生が 19.6%に上ることが注目される。

回答者の中で子どもがいる大学院生等も 11.4%に上っている。性別でみると、女性の大学院生等のほうが子どもがいる割合が高くなっている。さらに、介護が必要な近親者がいるものが、同居・別居を合わせると 19.5%となっている。